

会場での質疑応答の記録

西中学校区

Q 1 :	学校再編の必要性はあるのか。
A 1 :	西中学校区について言えば、そんなに危機感、急いでやらなくてはいけないという感じではないと思っている。今回は、市全体の再編計画について説明し、御意見を伺っている。市の周辺部の学区では切実な状況のところもある。今後も少子化は進んでいく。全中学校区を同時にスタートさせることはできないので、今後、状況や条件を判断して順位付けを行っていききたい。
Q 2 :	具体的に、何年後くらいに再編を予定しているのか。
A 2 :	9月5日までかけて全中学校区を回って意見を伺っていく。その後、将来的な計画について粗いスケジュールを作っていきたいと考えている。
Q 3 :	駅南の学校の方向性はこれから検討していくのか。
A 3 :	今後、中学校区ごとの検討の中で考えていく。
Q 4 :	コストはどれくらいかかるのか。
A 4 :	施設の数が少なくなると、建設費や維持管理費は安くなる。建てる場所によっても金額は大きく変わってくるので、具体的な試算は行っていない。
Q 5 :	大きな学校のメリットは。
A 5 :	あまり大きすぎるのもよくない。教育委員会としては大規模校ではなく適正規模の学校にしていきたいと考えている。国が定める適正規模の基準は、小学校では1学年2～3学級、中学校では4～6学級が適正規模とされている。
Q 6 :	小中一貫教育とは何か。
A 6 :	小中一貫校は、小学校と中学校は別々の組織となる。これまで、小学校と中学校ではそれぞれの学校で教育目標を定めて、その目標に向かって教育を行ってきたが、小学校と中学校で目標が全然異なることもあった。教育目標を小中学校で共有して、一貫したカリキュラムに基づいて、その指導方法も小中で共有しながら行う。学習内容も小学校で教えたことを踏まえて中学校で教えるという系統性を大切にする。以上の点を実践することで小中一貫教育の効果を高めることができる。